

プロジェクト研究

《担当者名》福祉マネジメント学科全教員 大原 裕介（客員）

【概要】

プロジェクト研究として、3年間の講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、地域にある問題やニーズについて、具体的な問題解決につながる計画を立案し、担当教員の指導のもとで実際の活動として実施し、その過程・結果をまとめる。

【学修目標】

学生が各自の問題意識・関心のあるテーマについて、これまで学んだ知識や技術を生かし、地域にある問題の解決やニーズの充足に向けて、学生が主体的に企画・実施・評価を行うことを目標とする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	プロジェクト研究の進め方について	全教員、大原
2	研究の実施(1)	問題解決に向けての計画立案	全教員、大原
3	研究の実施(2)	問題解決に向けての計画立案	全教員、大原
4	研究の実施(3)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
5	研究の実施(4)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
6	研究の実施(5)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
7	研究の実施(6)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
8	研究の実施(7)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
9	研究の実施(8)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
10	研究の実施(9)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
11	研究の実施(10)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
12	研究の実施(11)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
13	研究の実施(12)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
14	研究の実施(13)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
15	小括	前期に取り組み状況についての振り返り	全教員、大原
16	研究の実施(14)	進捗状況と後期の実実施計画の確認	全教員、大原
17	研究の実施(15)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
18	研究の実施(16)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
19	研究の実施(17)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
20	研究の実施(18)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
21	研究の実施(19)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
22	研究の実施(20)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
23	研究の実施(21)	問題解決に向けての活動の実施	全教員、大原
24	研究の実施(22)	プロジェクト研究の振り返り	全教員、大原
25	研究の実施(23)	プロジェクト研究の振り返り	全教員、大原
26	研究の実施(23)	プロジェクト研究の振り返り	全教員、大原
27	研究の実施(24)	学習成果のまとめ(報告書の作成等)	全教員、大原
28	研究の実施(25)	学習成果のまとめ(報告書の作成等)	全教員、大原
29	研究の実施(26)	学習成果のまとめ(報告書の作成等)	全教員、大原
30	総括	これまでの学修の成果及び今後の課題の展望	全教員、大原

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

取り組み状況（50％）や成果物（50％）により総合的に評価する。

【教科書】

必要に応じ、担当する教員が提示する。

【参考書】

必要に応じ、その都度担当する教員が提示する。

【学修の準備】

毎回、教員が授業時に提示する内容に取り組むこと（予習復習4時間）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP1：人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP5：多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している